

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地														
日本工学院八王子専門学校		1987/3/27	千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111														
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地														
学校法人片柳学園		1956/7/10	千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111														
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士													
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こども学科 保育士コース			平成30年文部科学省認定	-													
学科の目的	本学科は、保育士コースと幼稚園教諭・保育士コースの二つがり、どちらのコースも指定保育士養成施設として、卒業と同時に保育士を取得することが可能です。幼稚園教諭・保育士コースは豊岡短期大学通信教育部のカリキュラムで学ぶことにより、卒業と同時に幼稚園教諭二種免許を取得することが可能です。両コースとも学科独自のキャリア実習により、個人の適性に応じたキャリアマッチングを行うとともに、実社会に必要なスキルを高めることを目的とします。																		
認定年月日	平成28年2月19日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
2年	昼間		1,725	630	735	570		30											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数														
80人の内数	16人	2人	5人の内数	3人の内数	8人の内数														
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S: 90点以上 A: 80～90点 B: 70～79点 C: 60～69点 D: 59点以下不合格 P: 単位認定														
長期休み	■学年始: 4月1日～ ■夏季: 7月22日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月4日 ■学年末: 3月22日～3月31日		卒業・進級条件		【進級要件】 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 【卒業要件】 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者に対しては、当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。		課外活動		■課外活動の種類 卒業作品展示会、地域の保育園でのボランティア活動														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 社会福祉法人敬愛学園、社会福祉法人 打越保育園、学校法人東京内野学園 東京ゆりかご幼稚園、社会福祉法人 エス・オー・エス こどもの村、社会福祉法人武蔵野会 八王子福祉作業所		■就職指導内容 個人面談、集団面接、個別説明会		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> <tr> <td>保育士</td> <td>①</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>幼児体育指導員</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	保育士	①	8人	8人	幼児体育指導員	③	3人	3人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
保育士	①	8人	8人																
幼児体育指導員	③	3人	3人																
		■卒業生数 : 8 人 ■就職希望者数 : 8 人 ■就職者数 : 8 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 88 % ■その他		主な学修成果(資格・検定等)※3		①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄													
		(令和2年度卒業者に関する 令和3年5月1日 時点の情報)																	

中途退学 の現状	<p>■中途退学者 2名 ■中退率 7%</p> <p>令和2年4月1日時点において、在学者27名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者25名(令和3年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 病気療養 等</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と主任/科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も適時行っている。</p>
経済的支援 制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有</p> <p>・片柳学園入学金免除制度・若きつくりびと奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度 ・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象</p>
第三者による 学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審 http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>
当該学科の ホームページ URL	<p>https://www.neec.ac.jp/department/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

幼稚園や保育園、関連企業と連携体制を確保して、幼稚園教諭や保育士に求められる人材の養成を目的とした授業科目内容の見直しを図る。そのため、校内の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師によって適宜、指導や評価を受ける体制をとることが可能な企業等を教育機関や保育機関より選定している。現在の保育現場で、どのような保育者を求めているのかを的確に分析し、学校教育においてこれら(漢字練習、わらべうた、素話、パソコンの基本操作など)を取り入れた指導をしていくことを目標としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
榑原直哉	社会福祉法人福愛会 藤井保育園	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	①
宮崎豊彦	社会福祉法人共栄会 城山保育園	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
光宗政治	社会福祉法人 打越保育園	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
竹内 雅代子	麻生学園 南多摩幼稚園	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
内野 彰裕	八王子市私立幼稚園協会会長 学校法人 東京内野学園 園長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
坪井 勇次	日本工学院八王子専門学校 キャリアサポートセンター センター長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
三樹 春幸	日本工学院八王子専門学校 科長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月・9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年3月8日 10:00～11:30 ZOOMにて実施(令和3年1月に教育編成委員にヒアリング実施)

第2回 令和3年10月20日 ZOOMにて実施予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

現場の保育士の中でよく存在する問題として「手書き」練習の必要性が指摘された。保育実習指導IBで実施する保育実習中でも、保護者との連絡等にも必須なため、「手書きの向上」を目指してほしいという意見から、「ペン字」練習をする授業時間を加えた。現場で欠かせないものとしての手書きの練習を繰り返し、改善や上達できるよう指導にあたる。また、「幼児を対象とした運動指導スキルの向上」を目指してほしいという意見から、保育現場における幼児体育指導についての実践的な授業を設け、運動をしっかりと実践できるスキルを身につけられるよう指導にあたる。さらに、保育現場で求められている新たなスキルなどを身につけさせるため、保育実習の事前指導及び事後指導を徹底的に行う。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

幼稚園教諭・保育士としての実務に必要な基礎知識を身に付け、実習や実務で即戦力となるために、現場となる幼稚園や保育園、幼児体育関連企業からの助言や指導を直接得られることが可能な企業を選択する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

保育の全体的な構造を理解し、保育の内容はもちろん具体的な援助方法等について学ぶ。即戦力の育成を目指すことを念頭におきながら、実際の現場で求められる保育士としての資質・能力に基づく指導・援助を含めた知識とスキルを教授していただく。「保育実習IB」では、保育の目標、子どもの発達、内容を関連づけた保育内容の展開と子どもの育ちについて理解を図る。また、「こどもと体育」では、保育内容を理解させながら、体育の基本的な知識と特に幼児の運動能力向上を目的とした運動指導の実践方法を学ぶ。この他、八王子市私立保育園協会と連携したキャリア実習では、即戦力をもつ保育者養成に取り組んでいる。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
保育実習IB	保育所や幼稚園における「保育」の全体的な構造について理解し、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを理解することが大切である。保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づく保育内容の基本的な理解を深めるとともに、現場で求められる理想の保育者像について学ぶことを目的とする。	社会福祉法人 愛信芳主会 幼保連携型認定こども園 さゆりの丘学園
キャリア実習	保育士養成校での学びを踏まえ、社会人として働くことを意識し、保育実習や幼稚園教育実習後に自己の特性や能力に応じたキャリアマッチングを行うため、保育所・施設または幼稚園において10日間のボランティア実習を行う。	社会福祉法人 打越保育園 社会福祉法人 共栄会 横川保育園
こどもと体育	こどもの運動遊びは、訓練的にならずこどもたちが能動的に取り組む、多くの体験が出来るような環境を設定することが大切である。多くの運動遊びの指導法を習得し、年齢や環境に応じた指導が出来るとともに、こどもの発育発達に則した運動遊びの指導法の習得を目的とする。	日本幼児体育学会

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名: 児童養護施設の現状と保育士としての役割

令和2年1月20日 13:00～16:00

内容: 児童養護施設を利用しなければならぬ理由の多様化と、対応の仕方。保育者としての援助の在り方。
講師 大山遥

2) 研修名: 障害疑似体験を通じた障害理解

令和2年1月26日 10:00～12:30

内容: 障害(聴覚過敏・視覚障害)の体験を行い、どのような援助が必要かを学ぶ。脳波を使ったコンピューター操作を行い、障害者が社会での活躍の可能性などを学ぶ。講師 リンクス 梶田 相澤満

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名: 東京都における保育人材確保と養成に関する連絡会

令和3年3月11日 15:00—16:30

連携企業等: 社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京福祉人材センター

内容: 主に、就職活動や実習指導内容等に関する養成施設間や児童福祉施設との情報交換

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

1) 研修名: 保育者に求められる資質能力とは

令和3年11月(案)

連携企業等: 八王子市私立保育園協会

内容: 保育現場で働く保育者にも感染症教育は必要なのか

2) 研修名: 保育現場が求める人材と養成校との連携

令和3年12月(案)

連携企業等: 東京児童協会江東区白河かもめ保育園(原麻美子)

内容: 保育現場と養成校の教育連携の諸問題について

② 指導力の修得・向上のための研修等

1) 研修名: 保育士の指導能力向上について

令和3年11月～12月(案)

連携企業等: 八王子市私立保育園協会

内容: AI時代を生きるための保育士に求められる資質・能力とは

2) 研修名: 幼稚園で求められる人材と養成校との連携について

令和3年12月～令和4年3月(案)

連携企業等: 麻生学園 南多摩幼稚園(竹内雅代子)

内容: 教育のデジタル化と幼稚園の教育現場で求めている人材について

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」
関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3)教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4)学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5)学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8)財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動
(11)国際交流	

(3)学校関係者評価結果の活用状況

ICT教育を全カレッジ全学科の必須の基盤教育として推進していく。これを実現していくために、東京工科大学と連携して教育内容のIT化を推進していく。教育方法のIT化の推進を実現するため、今年度においては、特にICTを活用した先進的で分かり易い教材・教育方法等の開発・実践を進める。

コロナ禍でのオンライン授業などに対応するため、利用し易いIT環境を順次整備を進めている。また、対面授業においても専門家からの意見を参考に、引き続き感染防止対策に万全を尽くしていく。

教員もコロナ禍における授業体制に対応するスキル向上のため、今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を積極的に活用できるよう教員の研修体制を整えていく。

地域連携・高専大連携、国際連携等を積極的に推進していく。

募集活動においては、オンライン面談(実施済み)・オンライン出願なども実施していく。また、経済的な問題を抱えている学生へは、高等教育の修学支援新制度を周知しながら修学継続できるような支援策を実施していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	卒業生/ IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	城山保育園 園長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 令和3年7月31日

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、令和2年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

(3)情報提供方法

ホームページ

URL: <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科/保育士コース)令和3年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			情報リテラシーと処理技術A	コンピュータ(ハードウェア、ソフトウェア)の仕組み、インターネットの仕組み、情報セキュリティ対策の基礎について、技術的な理解を深めます。	1・前	15	1		○		○				
	○			情報リテラシーと処理技術B	Windowsの基本操作、文字入力の方法から文書の編集機能まで、WORDの基礎的な使用方法を実習するとともに、表計算機能を中心にExcelの基礎的な使用方法についても実習します。	1・前	15	1		○		○				
		○		憲法	日本国憲法の全体像を理解し、日本国憲法の成立過程、基本原理とその相互関係、基本的な条文について学びます。	1・前	30	2	○			○				
	○			英語コミュニケーション	日本語と英語の違いを理解し、英語独特のリズム、音の連結、弱化を身につけ、アウトプットすることの重要性を体得します。ドラマメソッドを活用し、クラス終盤でグループ別の劇発表をします。	1・前	30	2		○		○				
	○			健康科学	生活環境が健康に及ぼす影響を学び、自分自身の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの基本的な方法について学びます。	1・前	15	1	○			○				
	○			スポーツ(実技)	スポーツの楽しさを味わいながら仲間と身体活動を行う中で、自己の体力健康の保持増進を図ります。	1・前	30	1			○	○				
	○			保育原理	保育とは何かを広い視野から捉えて保育全般について学びます。具体的には保育の意義と目的、保育所保育指針における保育の基本について理解し、保育の内容と方法の基本について学びます。	1・前	30	2	○			○				
	○			教育原理	教育の意義や目的をはじめ、教育制度などの教育学の基礎知識について学習します。教育の現状及び教育をめぐる諸問題について取り上げて検討すると共に教育実践の取り組みについても学習します。	1・前	30	2	○			○				
	○			こども家庭福祉	歴史的変遷から、実状、今求められている子ども家庭支援の在り方・ニーズ、課題と今後の展望まで広く概観します。	1・前	30	2	○			○				
	○			社会福祉論	社会福祉全般について広く概観します。児童福祉や障害児支援との関連も学びます。	1・前	30	2	○			○				
	○			保育・教育者論	教育者・保育者とは何か、望ましい教育者・保育者となるためにどのようなことを身につけておかなければならないか、職務内容とは何かについて学びます。	1・前	30	2	○			○				
	○			保育内容総論	「保育」の全体的な構造について理解し、乳幼児の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助について保育の流れを理解します。	1・前	15	1		○		○				
	○			こどもの指導法「人間関係」	子どもの成長のために必要とされる、「人間関係」の基本を学びます。子どもが他者と関わりながら成長するために必要な、基本的な考え方・指導法・評価を学びます。	1・前	15	1		○		○				
	○			こどもの指導法「リズム表現」	保育内容を理解し、音楽的・身体的・言語的表現領域から総合的に表現力を引き出し、子どもの指導援助者としての指導法を身に付けます。	1・前	15	1		○		○				
	○			こどもと造形	形や色などの造形の基本を学習します。用具、材料、技法に関する基礎知識や、幼児の造形指導に必要な造形遊びについて、実技を通して学習します。	1・前	15	1		○		○				
	○			表現とこどもの運動	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深めます。	1・後	15	1		○		○				
		○		教育心理学A	幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的な理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達の理解の意義を理解します。	1・前	15	1	○			○				
		○		教育心理学B	様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解します。また、主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解します。	1・前	15	1	○			○				
		○		ピアノ表現1	ピアノ演習を中心に、音楽の基礎を学びます。保育現場で使われる曲をピアノレベル別に選択し、実用可能レベルに仕上げることが目標とします。	1・前	30	2		○		○				
		○		人間関係論	領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解します。	1・前	15	1	○			○				
	○			こどもと音楽表現1	歌唱、ピアノ奏法、弾き歌いの基本について学びます。ピアノ奏法はピアノ技術の習得レベルに応じてピアノ演習を行います。	1・前	15	1		○		○				
		○		夏期校外実習1	マリンスポーツ(サーフィン、ボディーボード)、キャンプ、アウトドア、ダイビング実習から自由に選択し、各スポーツの基本的な技術を学びます。	1・前	30	1			○	○				
	○			HR1	学生生活のサポートを行うため、学生一人一人の状況を確認し、履修カリキュラムの達成状況を確認します。また、実習に向けた、ごく基礎的な社会的スキルの習得を目指します。	1・前	30	2	○			○				
		○		ビジネススキル	実習および就職活動を見据えつつ、実習・就職後も現場で困ることのないよう、一般常識としてのマナーやスキルを学び、実践レベルで身につけます。	1・前	30	2	○			○				
	○			社会的養護 I	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷を理解し、こどもの人権擁護を踏まえ、社会的養護の基本について理解します。	1・後	30	2	○			○				

26	○	発達心理学	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解します。	1・後	30	2	○		○		○			
27	○	こどもの発達と家庭支援	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について包括的に捉える視点を取得します。	1・後	30	2	○		○		○			
28	○	こどもの理解と援助	保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解します。	1・後	30	2	○		○		○			
29	○	保育・教育課程論	教育課程とは何か、そしてどのような意義をもつかなど、教育課程に関する基礎的な理解を深めます。現在に至るまでの教育課程論の歴史について確認し、その構造を明らかにします。	1・後	30	2	○		○		○			
30	○	こどもの指導法「言葉」	乳幼児期の言葉の発達過程や言語教材が持つ意義について学び、保育者として子どもの言葉を引き出す言葉掛けの在り方を身につけます。	1・後	15	1	○		○		○			
31	○	こどもの指導法「造形表現」	幼児にとっての造形表現の大切さや、発達過程における表現、指導援助の方法などを学びます。	1・後	15	1	○		○		○			
32	○	乳幼児保育Ⅰ	乳児保育現状と課題を理解し3歳未満児の発達と保育について学びます。映像や事例を活用し理解を深めていきます。	1・後	30	2	○		○		○			
33	○	障害児保育	保育における障害児支援のニーズは年々高まっています。また「障害」は多様化しています。そうした現状を踏まえ、障害児保育とは何か、何故必要なのか、保育士に何が期待されているのかを学びます。	1・後	30	2	○		○		○			
34	○	保育実習指導ⅠB	保育実習Ⅰの事前学習として、事前手続きから基本的な知識、社会人マナー、実習生の心構えについて学びます。特に子どもの人権、プライバシー、保護を理解します。	1・後	15	1	○		○		○			
35	○	ピアノ表現2	ピアノ表現1と同等に、保育現場で必要な曲を中心に習得します。楽譜通りに弾くこと以外にコードで弾きこなすテクニックを身につけることを目的に、レベル別に曲を選択しながら弾き歌いを行います。	1・後	30	2	○		○		○			
36	○	こどもと音楽表現2	こどもと音楽表現1と同様に、ピアノ奏法はピアノ技術の習得レベルに応じてピアノ演習を行います。	1・後	15	1	○		○		○			
37	○	音楽表現論	領域「表現」を理解し、子どもの音楽表現の姿やその発達を促す要因、子どもの音楽的感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びや環境構成など、専門的意識・技能・表現力を身に付けます。	1・後	15	1	○		○		○			
38	○	造形表現論	形や色などの造形の基本を学習します。用具、材料、技法に関する基礎知識や、幼児の造形指導に必要な、造形遊びについて、実技を通して学習します。	1・後	15	1	○		○		○			
39	○	冬季校外実習1	スキー、スノーボード、ダイビング実習から自由に選択し、各スポーツの基本的な技術を学びます。	1・後	30	1			○		○		○	
40	○	HR2	実習に向け、社会人スキルの基本を養うとともに、保育士実習に向けた基本スキルを確認します。	1・後	30	2	○		○		○			
41	○	こども家庭支援論	子育て家庭が抱える困難・ニーズなどを理解し、保育者としての支援方法・技術を学びます。これまでの子育て家庭支援の在り方と今後の展開を学びます。	2・前	30	2	○		○		○			
42	○	こどもの保健	こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもの発育や身体的特徴を理解し、こどもとの接し方について総合的に学びます。	2・前	30	2	○		○		○			
43	○	こどもの指導法「健康」	こころからだが著しく発達する乳幼児期の健康領域に関する基礎的な知識について学びます。	2・前	15	1	○		○		○			
44	○	こどもの指導法「環境」	保育者として具体的な活動や事例を通して理解を深めるとともに、物・自然と関わる保育実習を通して子どもの生命への探求心を養っていくことの重要性についても学習します。	2・前	15	1	○		○		○			
45	○	こどもの指導法「音楽表現」	領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通じた様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解します。	2・前	30	2	○		○		○			
46	○	こどもの指導法「言語表現」	子どもが会おう児童文化財の鑑賞・再体験を通して、受講者自身の想像力や感性を磨き、子どもに寄り添う保育者としての基盤を構築します。	2・前	15	1	○		○		○			
47	○	乳幼児保育Ⅱ	子どもと保育者との関係の重要性について学びながら、一人一人の発達に応じた援助の方法を学んでいきます。	2・前	15	1	○		○		○			
48	○	こどもの健康と安全	乳幼児期の特徴と観察、身体計測技術、生理機能計測技術の学習や演習を行います。	2・前	15	1	○		○		○			
49	○	社会的養護Ⅱ	社会的養護Ⅰから発展し、さらなる理解を深め、具体的な援助方法・知識・技術を学びます。施設養護と家庭養護のそれぞれの違いと意義を学びます。	2・前	15	1	○		○		○			
50	○	子育て支援	保育士としての専門性を生かした保護者への相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解します。また、実践事例等を通して具体的に理解します。	2・前	15	1	○		○		○			
51	○	保育実習指導ⅠA	実習へむけての心構えをし、準備を整えます。実習後の振り返りにより、自己の課題を明確化します。	2・前	15	1	○		○		○			
52	○	保育・教職実践演習A	実践力が身に付くように模擬授業を取り入れ、自らの課題を把握できるような授業内容を展開し、実習・現場で役立つ教材作成・発表を行います。	2・前	15	1	○		○		○			
53	○	ピアノ表現3	保育現場で欠かせない季節のうた、行事に関するうたなどを中心としたピアノ演習を行います。同じ曲でもコードを見ながらアレンジを変えて、どんなレベルでも弾き歌いができるように自分で工夫しながら弾くことが出来る応用力を身につけます。	2・前	30	2	○		○		○			
54	○	幼児造形	保育実習や保育現場で求められる、より実践的な造形技法を学び、身に付けます。	2・前	15	1	○		○		○			

55	○	環境論	乳幼児期の子どもの発達と環境の関係性を考えます。また、環境を通して行う保育の意味を学習し、保育者自身が保育環境のデザインを実践できるようにします。そのために様々な環境との出会いに気づき、理解します。	2・前	15	1	○	○	○											
56	○	こどもと体育	こどもの運動遊びの必要性や発育発達段階を理解しながら学び、安全に楽しく運動遊びを実施するための指導方法と援助方法について学びます。	2・前	15	1	○	○	○	○	○									
57	○	キャリア実習B	保育実習後に自己の特性や能力に応じたキャリアマッチングを行うため、保育所・施設において20日間のキャリア実習を行います。	2・前	180	4		○	○	○	○	○	○	○						
58	○	インターンシップ	人間力向上を目指すことを目的に、希望者自身が選定したインターンシップを経験し、コミュニケーション能力、行動力、判断力、積極性を身につけます。	2・前	30	1		○	○	○	○									
59	○	夏期校外実習2	マリンスポーツ(サーフィン、ボディーボード)、キャンプ、アウトドア、ダイビング実習から自由に選択し、各スポーツの基本的な技術を学びます。	2・前	30	1		○	○	○	○									
60	○	HR3	学生一人一人の履修カリキュラムの達成状況の確認及び実習前指導を行います。学習及び生活面で、見通しを持ち、社会人として自立して行動できるようなスキルを身につけます。	2・前	30	2	○		○	○	○									
61	○	こどもの食と栄養	こどもの発育発達に合わせた食生活とその意義、食育を行うための基礎知識と重要性を理解し、家庭や児童養護施設における食生活の現状と課題について理解を深めます。	2・前	30	2		○	○	○	○									
62	○	保育実習 I A	実践的実習を行います。施設の生活に参加することで、保育の流れや保育士の仕事内容を学びます。保育への社会的・家庭的ニーズを理解します。	2・後	80	2		○	○	○	○									
63	○	保育・教職実践演習B	保育実習を終えた学生を対象に、キャリア実習で経験した職務に対する責任感、コミュニケーションの重要性、幼児の理解、保育内容の指導力などについて総括し、保育者として実践力について理解を深めます。	2・後	15	1		○	○	○	○									
64	○	特別支援教育	特別な教育的ニーズを持つ子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し、生きる力の基礎を培うために、生活上および認知機能における困難を理解し、関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解します。	2・前	15	1	○		○	○	○									
65	○	保育実習 II	保育実習 I で経験してきた保育内容に課題をもうけ、具体的に取り組むことを目的とします。指導計画の進め方・取り組み法を確認し、課題のレポートを増やします。	2・後	80	2		○	○	○	○									
66	○	保育実習指導 II	保育士として実践的な実習を行っていきます。実習で経験してきた子どもの関わりも更にスキルアップできるように、復習を踏まえ苦手な場面には繰り返し取り組み、評価等のレベルアップにつなげます。	2・後	15	1		○	○	○	○									
67	○	音楽総合演習	保育内容に沿って、こどもの音楽表現活動を援助し、子どもの成長過程における豊かな人格形成(情緒・表現・鑑賞等)を育成することをテーマに学習します。合わせて指導法を学びます。	2・後	15	1		○	○	○	○									
68	○	造形総合演習	作品展などに応用できる造形技法を習得し、指導法を習得します。	2・後	15	1		○	○	○	○									
69	○	スポーツ総合演習	保育所や施設などの現場で活躍できる、様々なスポーツについての基礎的な知識、実施方法や注意点などについて学びます。	2・後	15	1		○	○	○	○									
70	○	調理総合演習	保育所で実際に提供される幼児食を中心に調理を行っていき、食育について考えていきます。	2・後	15	1		○	○	○	○									
71	○	冬季校外実習2	スキー、スノーボード、ダイビング実習から自由に選択し、各スポーツの基本的な技術を学びます。	2・後	30	1		○	○	○	○									
72	○	卒業発表	2年間の集大成として、学んできた「実習内容」を、各分野に分かれて集中的に磨き上げ発表することで、保育者としての自覚と自信を身につけます。	2・後	30	2		○	○	○	○									
73	○	HR4	学生一人一人の状況を確認するとともに、履修カリキュラムの確認を行う。卒業発表に向けて、準備できるもの、何を表現していくのか考察を深め、表現力を身につけます。	2・後	30	2	○		○	○	○									
74	○	保育実習 I B	保育士として実践的演習を行います。1年次講義や演習を通して学んだ保育原理、発達心理、障害児保育、保育内容や方法などの様々な知識・技術を、保育所の生活に参加し、子どもと直接ふれあひながら保育士の仕事内容を学びます。	1・後	80	2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
合計					74科目				1965時間(107単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目1305時間(76単位)および選択科目420時間(20単位)以上取得し、合計1725時間(96単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	15週	